



今回で12回目になる「テッラマードレ・サローネデルグスト2018」(9月20〜24日)が、イタリア・トリノのフィアット工場跡地を利用したリンゴット展示会場で開催された。テッラマードレは、世界約170か国以上から小規模農業者や食生産者を集めて交流し、持続可能な生産活動とそれを取り巻く環境について意見を交わす国際イベントで、隔年で開催される。サローネデルグストはイタリア国内各地から1000を超える小規模生産者が集まる食の見本市である。

スローフード国際会議で都市養蜂が脚光を浴びた

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 最高顧問 高安和夫



ていて、今年の展示スペースのテーマは「BEE S& INSECTS」(蜂と昆虫)である。「ミツバチやマルハナバチ、チョウやハエも含めて、訪花昆虫の受粉による恩恵は食糧生産全体の約70%に及んでいる。昆虫による受粉がないと野菜や果物だけでなく牛乳や肉までも食卓から消えてしまう」とパネル展示で訴えている。また、EAT ALY(オーガニックの食材を扱う会社)と連携した「BEE THE FUTURE 100」キャンペーンでは、「今後の3年間で失われた訪花昆虫と生物多様性を取り戻す。そのためには、ハチ達が愛する植物をイタリア国内で100ha植えていく。主役は活動的な100人の農家たちだ。」テッラマードレの期間中、BEE THE FUTURE 100のポスターが会場近くの地下鉄リンゴット駅や、リンゴット及びトリノ中央駅近くのEAT ALY店舗でも貼られ、店員はロゴマークの付きのTシャツを着てキャンペーンを盛り上げていた。

事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。

平成22年6月環境大臣表彰。
平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり」選定を受ける。

私たちが銀座でも「ミツバチと環境」について市民講座を開催し、小学校や幼稚園保育園に出前授業に行つては、ミツバチの生態や都会での自然との共生について話してきた。それが花を植える屋上農園を整備する活動に広がっている。都市養蜂は世界各国で人と自然をつなぐ役割を果たしているようだ。